

平成 24 年 9 月 11 日 絆づくり対策特別委員会

◆帆苅謙治委員 素人が質問しますが、先ほど体罰の話が出ていました。冒頭に、私は体罰の肯定論者ではないことを言ったうえで質問させてもらいます。先ほどから議論を聞くと、生徒側からばかり見えています。委員の質問もそうだと思います。先生側から見ると、一生懸命やれば体罰なのだと。これではモチベーションが下がるのではないのでしょうか。いろいろと言えば、うるさい父親や母親が出てくると。やりづらくてしょうがない、こういうことがあると思います。

子供は体罰やいじめから不登校になったり、まかり間違えば自殺に追い込まれるという結果になっていくと思うのです。裏を返せば、先生がたも生徒と同じようなものがあるのではないかと思いますし、先生の不登校も踏まえ、モチベーションが下がっているというのは確かだと思います。何もしないほうが楽であると。一生懸命やって怒られるよりも、何もしないで給料だけもらっていればいいという先生が増えているのではないかと思います。その辺の懸念材料について、どのように考えているのですか。

◎石井充高等学校教育課長 高校のことを想定してお答えいたします。高校にはいろいろな生徒がおります。不登校ぎみの生徒もおりますし、逆に、なかなか言うことを聞かない生徒もおります。必要に応じて教員は生徒を見ながら指導しておりますし、時には厳しい指導が必要だということもあろうと思います。ただ、暴力的な指導が許されるわけはありませんので、その点については、例えば運動部活動などで一発たたいたことによって目が覚め、いいプレーをしたのだということが肯定されるわけではないとは繰り返し指導しております。また、体罰をしてはいけないということによって、教員の教育に対する意欲が下がるということはないと認識しております。

◆帆苅謙治委員 それは逃げですよ。15 年くらい前になりますけれども、私も自分の子供が中学生、高校生のころは、父兄が頼んで、バスケットのチームであればチームを強くしてくれと。それには、間違っていたら、体罰に近いといいますか、愛のむちも必要だという、父兄や生徒の間にも暗黙の了解があったのです。先日、三十何歳でいちばん遅く結婚した子供の結婚式に私も呼ばれましたけれども、やはり当時の先生も来ていました。ここは絆づくり対策特別

委員会ですが、まさに絆が育っていたということだと思います。今の話を聞いていると、教育委員会は逃げる格好で体裁を整えるのが担当で、我々委員は突っ込むのが担当で、その対策といえば、こういう対策を執っていますと。先生がたを増やしてケアします。電話相談はしますと。それは大事ですけども、それ以前の問題だと思うのです。先生がたの中で登校拒否や、モチベーションが下がっているということについて、簡単でいいのですが、教えてください。

◎高井盛雄教育長 モチベーションとは違うかもしれませんが、メンタルヘルスという点で、長期の病気休暇あるいは休職者の状況ということで話し申し上げますと、平成24年度の長期病気休暇休職者は430人で、その内、精神及び行動の障害ということで心を病んでいるようなかたが183人となっております。

◆帆苅謙治委員 これは高等学校も小中学校も合わせてですね。社会が病んでいるのかもしれないけれども、これだけいるというのは、あまりにも先生がたの指導、教育の分野がだんだん狭まっているから、おかしくなっているのだと思います。これは持論ですが、我々が子供のころは、いじめはあったけれども、恨むようないじめはなかったですし、悪いことをすれば先生から殴られましたけれども、それを恨みませんでしたし、悪いことをして悪かったと思うような時代でした。その時代が悪いとは思っていません。

今の子供たちも、親に責任があると言われればそうかもしれませんが、小学校であれば小学校6年生が小学校1年生をかばうとか、あるいは親を親として大事に扱う、おばあちゃん、おじいちゃんを大事にする、年少者は先輩に従っていくという、昔からの伝統というか、文化といったものをもっと教えていく必要があるのではないかと思います。抜本的な対策は道徳教育しかないと思います。道徳教育は最近やっているように聞いてはいますが、いいものをまた見付けて、将来につないでいくというのが教育だと思うし、日本人だと思うのです。

そういうことからすれば、もっと先人たちのいい面に倣って、もっといいものをプラスしていくという道徳教育というのは、右寄りだとか左寄りなんていうのは関係ないのです。日本人の心意気だと。抜本的に直すにはこれしかないと思います。私はそう思うのです。教育長はどのように思っていますか。何かコメントがあったらお願いします。

◎高井盛雄教育長 委員御指摘のとおり、先人たちに学ぶことは大変重要であると私も思っております。日本人の思いやり、たくましく生き抜く力といったものを受け継いで、子供たちに伝えていくことも私どもの責務だと思っております。そうした中で、子供たちが力強く、一生懸命に勉強あるいはスポーツに励みながら健全に育っていく。それを見守る教員、学校、さらには保護者、地域の力といったもの全体で教育力を高めていくという点が重要だと思っております。今、この認識は受け止めさせていただきました。